Model 01

内閣官房
内閣人事局人事評価係長

山川 朋美（やまかわ ともみ）

Tomomi Yamakawa

Profile

- 平成19年 • **総務省入省（II種（行政区分）採用）**
  人事・恩給局交流係員
  国家公務員の民間や地方自治体との人事交流制度に関する業務
- 平成20年 • ～結婚
- 平成21年 • ～長男出産
  産前・産後休暇
  育児休業（約1年）
  育児短時間勤務で復帰
- 平成23年 • **人事・恩給局人事評価係員**
  国家公務員の人事評価制度に関する業務
- 平成26年 • **内閣官房内閣人事局人事評価係員**
  国家公務員の人事評価制度に関する業務
  • ～次男出産
  産前・産後休暇
  育児休業（約1年）
  保育時間と育児時間で復帰
- 平成27年 • **内閣人事局能力意欲向上担当主査**
  勤務成績不良職員への対応や障害者雇用に関する業務
- 平成28年～現在 • 4月からフルタイム勤務（フレックスタイムとテレワークを利用）
  • **内閣人事局人事評価係長**
  国家公務員の人事評価制度に関する業務

それぞれに楽しいところを見付ける♪

制度は、使ってみないと分からない

長男出産後の復帰時は夫とは休日に顔を合わせる程度だったこと、初めての育児で不安であったということで育児短時間勤務（5時間×5日）を利用しました。次男出産後の復帰時は2人目で慣れてきたこともあり、育児時間（1日2時間短縮）を利用しました。長男が小学校に上がると同時にフレックスタイム制度が活用できるようになったので、テレワークと併用し、フルタイム勤務に戻し、実家の近所に引っ越して小学校の壁を何とか乗り越えました。入学当初はまだ小さいから心配だと思っていた長男は、母親が余り構わなかったためにいつの間にか意外にたくましく成長していて、自分で次の日の予定を考え、準備できるようになっていました。

いろいろ制度を利用してみるとメリット・デメリットが分かり、人事行政の制度官庁という立場でもあるので、制度を利用する側の気持ちも経験できました。

仕事と育児の両立

有り難いことに、制度は利用しましょうという職場環境なので、前述のとおり、現在も利用しながら、何とか両立しています。出産前は余り時間を意識せず仕事をしていましたが、出産後は勤務時間内に全体のスケジュールに気を付けながら、日々の業務を勤務時間内に終わらせるよう、業務1つがどのくらいの時間が掛かるか、どの順番で行うか、判断に迷えば上司に相談するなどし、係員にも頼りながら、何とか業務を進めているという状況です。自分だけの時間は余りなく、気付くとこんなに時間が経っているというような日が多く、残業がほとんどできず、周囲に頼らざるを得ない状況のため、一人前に仕事ができているのか不安になる時もありますが、何か業務が一つ無事に終えられたり、上司に感謝の言葉を頂いたり、褒めていただくとやりがいを感じます。

夫は平日だけでなく休日もほとんど頼れないので、子供の病気の時や、お迎えが間に合わない時は私の両親のどちらかが対応してくれたり、長男の習い事の見守りは周囲の父母が対応してくれたり、長男の登下校は近所の方が見守りしてくださったり、と周囲の方々には本当にお世話になっています。人間は一人では生きていけないということを実感しています。

このような状況なので、仕事も育児も家事も中途半端になってはいないかと感じてしまうことがよくありますが、仕事は突き詰めたら終わりがないし、育児の正解は分からないので、ある程度の納得感は自分で見付けていくしかないのかなと思っています。

今後の自分

現在は、あらゆる周囲の方に頼りながら、仕事と育児をしている状況ですが、そのうち子供の手が離れた時には、私の経験（制度利用、育児等）を恩返しできるよう、頼られるような人になっていたいと思います。

一日のタイムスケジュール例

6:00	起床、朝食準備
6:40	子供起床、夫出勤、子供と朝食
7:50	長男登校、次男を保育園に送り、出勤
9:00	登庁、メール確認、業務
12:00	昼休み
12:45	業務開始
17:30	退庁
18:30	長男と次男をお迎えし、帰宅
19:00	夕食準備、子供と夕食
20:30	子供と入浴
21:30	子供の寝かしつけ
22:30	家事（食器洗い、洗濯等）、翌日準備、夫帰宅
23:30	就寝

女性職員へのメッセージ

誰でも悩む時はあると思うので、話せる人やお手本になる先輩を見付けることで乗り越えていけると思います。また、私は雑誌の手抜き例を見て救われたので、これでもいいんだという例を見付けることもお勧めです。